



「自立支援介護」の時代へ

今、人類史上初めて経験する高齢化を迎え、長寿国日本は、世界に先駆けて超高齢社会に突入しています。しかしながら、社会のシステムや人々の暮らし方、家族のあり方までもが大きく変わるなか、もはやご家族だけを頼って、一生を明るく平穏無事に過ごすことが困難な状況になっています。年齢を重ねても、家族や社会とのつながりを失うことなく、いつまでもその人らしく暮らし続ける。そのための新しいライフスタイルを創造するには、どのようなサービスが求められるのか。私たち、株式会社サンケイビルウェルケアは、この大きな課題に取り組みながら、自立支援介護と社会とのつながりの重要性を認識するに至り、その結果、「自立」と「つながり」のある加齢スタイル、“Value aging”(バリューエイジング)の理念が誕生しました。

株式会社サンケイビルウェルケアは、この思いを実現するべく、平成23年4月に日本最大のメディアコングロマリット「フジサンケイグループ」初のシニア事業を担う会社として設立されました。平成24年秋には東京都練馬区に「ウェルケアテラス氷川台」、翌25年春には世田谷区に「ウェルケアガーデン馬事公苑」、同年秋に千葉県習志野市に「ウェルケアテラス谷津」、そして今年4月には埼玉県川口市に「ウェルケアテラス川口元郷」と、いずれも介護付有料老人ホームを開設いたしました。

昨今の介護業界を取り巻く環境をみると、高齢化の進行により社会保障費は毎年1兆円ずつ増加し、社会保障費が増大することで国の財政を大きく圧迫しています。介護給付費についても平成12年度の3.6兆円から平成25年度は9.4兆円と大きく増加し、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になる2025(平成37)年には約20兆円まで拡大していきます。この増え続ける社会保障費に対応するため、今年4月から消費税率が8%に引き上げられ、5月には改正介護保険法案も盛り込んだ「地域医療・介護総合確保推進法案」が衆議院を通過しました。平成27年4月には改正介護保険法が施行される見込みで、一定以上の所得がある方は1割負担から2割負担へと自己負担が増加します。また、要支援者への介護予防サービスの一部が、各自治体の地域

支援事業に移行され、自治体ごとに費用単価の設定が可能となるなど、2025(平成37)年に向けての大きな転換期を迎えることとなります。

こうした転換期のなかで、私たち介護事業を担う会社は、これまでとは異なる「新しい」介護サービスを提供していくことが必要であると考えています。弊社が取り組んでいる「自立支援介護」は、まさに新しい介護だといえるでしょう。自立支援介護とは、国際医療福祉大学大学院の竹内孝仁教授が提唱する「水分摂取、栄養、自然排便、運動」の重要性に着目し、ご本人の体調を整え、活動性を上げることで体力を回復し、意欲や活力を取り戻すことを基本精神とする、自立を支える介護です。自立支援介護は、「お世話型介護」とは一線を画し、実証と検証を積み重ねた理論をもとに行う介護です。そのため、介護理論を熟知したプロの介護職員による介護で、「結果を出せる介護」であるのが大きな特徴です。実際、弊社のホームでも、「胃ろう外し」、「オムツゼロ」を次々と達成し、なかには、要介護5から数カ月で要支援2まで改善した入居者もいます。入居者本人はもとより、ご家族からも大変喜ばれています。こうした自立度の改善は、大きな視点でとらえれば国の社会保障費の軽減にもつながるといえるでしょう。まさに、今の時代、これからの時代に必要な介護であると確信しています。

私たち、サンケイビルウェルケアは、高齢者住宅経営者連絡協議会の会員企業として、高齢者ご本人、そしてそのご家族、ひいては社会全体がハッピーになれる「自立支援介護」を実践してまいります。

館野 登志郎

たての・としろう

●PROFILE

平成22年株式会社サンケイビル常務取締役を経て、平成23年4月から同常務取締役兼株式会社サンケイビルウェルケア代表取締役社長に就任し現在に至る。

